

静岡県立中央図書館だより

文化の丘

令和8年9月号
(ISSN 1345-2282)

No.380

- 1 できなくても利用
できるってほんと?!
- 2 県内全域をつなぐ
県立中央図書館×市町立
図書館の強力タッグ
- 3 どうなってるの?新県立
中央図書館整備計画の今



静岡県立中央図書館

できなくても利用できるってほんと?!



県内西部A市の大学生の会話

私はA市の図書館で
県立図書館の本を
受け取ったよ。

卒論を書くのに見たい本が
県立中央図書館にはたくさんあるけど、
借りに行くのは遠いよね。

県立図書館の本以外にも、
近くの図書館に相談したら、
県内の図書館が持っている本も
取り寄せてくれるみたいよ。



この部屋の
正体は?

本当です。 静岡県内の図書館が連携し、近くの図書館で
読みたい本を受け取ることができるのです!
まるで、静岡県全体が大きな図書館のようなこの仕組み。
それを支えているのは静岡県立中央図書館の館内にある

コンテナボックスが並ぶこの部屋
今号では、静岡県内の図書館を結ぶ
物流サービスについてご紹介します。



物流サービスの仕組みとは? ②面へ



県内全域をつなぐ 県立中央図書館 × 市町立図書館の強力タッグ



インターネット予約による市町立図書館等受取サービス

静岡県立中央図書館の利用登録者が、インターネットを使って直接県立図書館の資料を予約し、近くの受取館で受け取る方法です。(利用者登録はインターネットや郵送でも可能です)

詳しくはこちら



受取館に指定できる図書館等(令和8年9月現在)

【東部・伊豆】小山町立図書館、御殿場市立図書館、裾野市立鈴木図書館、沼津市立図書館、富士市立中央図書館、富士宮市立中央図書館、三島市立図書館、函南町立図書館、熱海市立図書館、伊東市立伊東図書館、松崎町立図書館、下田市立図書館 【中部】焼津市立焼津図書館、藤枝市立駅南図書館、島田市立島田図書館、静岡県庁(県民サービスセンター) 【西部】菊川市立小笠図書館、掛川市立中央図書館、袋井市立袋井図書館、磐田市立中央図書館、浜松市立城北図書館、浜松市立浜北図書館、浜松市立都田図書館、湖西市立中央図書館、県総合教育センター(あすなろ)図書室



協力貸出

相互貸借



利用者登録のある市町立図書館等に依頼して、他館の資料を取り寄せる方法です。県立図書館から借りることを**協力貸出**、他市町等の図書館から借りることを**相互貸借**といいます。県内すべての市町立図書館(室)と一部の大学図書館等で利用できます。また、県外の図書館から取り寄せることも場合があります。日頃利用されている図書館にご相談ください。

お目当ての本を見つけるには? おうだんくんサーチ

【県内図書館横断検索システム】

使って便利!!



静岡県内の公共図書館、大学・専門図書館などの所蔵する資料を一括して検索できるシステムです。書名や著者名などのキーワードを入力して検索すれば、県内の図書館が所蔵している資料を探すことができます。



どうなってるの？ 新県立中央図書館整備計画の今



老朽化、狭隘化の進む静岡県立中央図書館は、東静岡駅南口県有地への全館移転整備の計画を進めてきましたが、整備に大きな財源不足を生じることなどから一旦立ち止まって整備計画を見直すこととなりました。見直しに伴い、県庁内に部局横断的なプロジェクトチームを設置し、「見直しの方向性」を令和7年12月に公表しました。

新県立中央図書館整備見直しの方向性(概要版)

新県立中央図書館整備等PT

1 検討の前提

- ①新県立中央図書館を東静岡地区に整備する
- ②静岡市と進めてきた「まちづくりの方向性」を尊重する
- ③厳しい財政状況を踏まえ、県の財政負担を軽減する

2 図書館機能の見直し

- ①基本的な考え方
 - ・社会情勢の大きな変化を踏まえ、図書館機能を見直し
 - ・基本的なコンセプトは踏まえつつ、「**経済性**」や「**機能性**」を重視し、サービス水準と費用対効果に「優れた施設を目指す」
- ②見直しの方向性
 - ⑦デジタル技術の活用
 - ・県民が、**住んでいる場所や時間を問わず、利用できる環境**を目指す
 - ・利便性が高く、効率的に運営される図書館を実現
 - ⑧市町立図書館との役割分担
 - ・県立図書館の役割は「**市町立図書館の補完・支援**」を基本
 - ・市町立図書館の機能と重複しないように見直し
 - ・蔵書を相互に活用する「図書館ネットワーク」を強化
 - ⑨収蔵能力
 - ・今後30年間で見込まれる**150万冊程度を上限**に見直し
 - ⑩蔵書の保管方法
 - ・**書庫の分散化を含め、最適な手法を選択**
 - ⑪新たな交流と価値の創出
 - ・東静岡地区全体の機能を最適化する観点から機能を見直し

3 最適な事業手法・東静岡地区のまちづくり

- ①基本的な考え方
 - ・**静岡市とのまちづくりの一体性を重視**
 - ・**民間活力の最大限の導入**を軸として、県の財政負担の軽減を目指す
 - ・**県有地の一体的な活用**(2.43ヘクタール)を基本
- ②事業手法の方向性
 - ・**最適な施設の配置や整備手法**(例えばPPP/PFI、定期借地権方式による公募など)を検討

4 今後のスケジュール

- ・「見直しの方向性」に沿って、具体的な機能や整備手法などを決定
- ・**令和10年代中頃～後半の開館を目指す**

<現計画との比較>

区分	現計画	見直しの方向性
建設地	東静岡駅南口県有地 東側(0.97ha)	県有地全体(2.43ha)で 最適な配置を検討
施設規模	19,800㎡	縮小
整備手法	県直営方式	民間活力の導入を軸として 最適な整備手法を検討 〔PPP/PFI、 定期借地による公募など〕
事業費	298億円	削減
開館時間	令和10年度	令和10年代中頃～後半
デジタル 技術の活用	利便性向上ほか (ICタグなど)	積極的に導入 (電子書籍など)
市町立図書館 との役割分担	指導・助言、 職員研修ほか	機能が重複しないよう見直し 図書館ネットワークを強化
収蔵能力	200万冊	150万冊程度を上限
蔵書の 保管方法	一体保管	書庫の分散化を含め 最適な手法を選択
新たな交流と 価値の創出	セミナー・ルーム カフェ、ラボほか	東静岡地区全体の機能を 最適化する観点から見直し

この「見直しの方向性」に基づき、令和10年代中頃～後半の開館を目指して、具体的な機能や整備手法などの検討を進めていきます。現在、「新県立中央図書館基本構想」の改定作業を進めており、改定にあたっては、有識者会議を開催して、各分野の専門家から意見を伺っているところです。

【新県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議】

●委員

朝比奈 一郎 (青山社中株式会社筆頭代表CEO)
野末 俊比古 (青山学院大学教育人間科学部教授)
林 左和子 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授)
小久江 暁子 (袋井市教育委員会生涯学習課長)
川村 美智 (静岡図書館友の会代表)
岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役)
岩田 勝 (株式会社谷島屋静岡営業部部長)
伊 夢瑛 (静岡大学情報学部助教)

●会議の開催状況・予定

第1回 5月21日、第2回 6月19日、第3回 7月17日、
第4回 9月17日予定



全4回の会議を経て基本構想改定案をとりまとめる予定です。

